

観光用いちご「とちひめ（栃木13号）」の育成

1．試験のねらい

いちごに対する消費者ニーズの多様化に伴い、いちご狩りや産地直売向けの栽培が増加している。そこで、果実が大きく食味が優れ、連続的に収穫のできる観光用いちご品種の育成を行った。

2．育成経過

平成2年に大果で品質が優れる栃の峰と多収性の久留米49号を交配し、平成3年に90-13-3の系統を選抜した。平成4年に特性検定試験を行い、食味が良く特に大果で収量性の高いことが認められたので、平成5年に系統名を栃木13号とし、現地適応性を確認した。平成8年および9年には観光摘み取り用としての適応性を確認し、平成10年3月に「とちひめ」として品種登録を出願した。

3．特性の概要

(1) 形態的特性

草姿は立性で、草勢はやや強い。葉は厚く、濃緑色で大きく丸みを帯びる。葉柄長は女峰より長い(表-1)。

(2) 生態的特性

ランナ-発生は多い。平地育苗での花芽分化期は女峰、とちおとめと同じ9月25日頃で、短日や低温等の花芽分化促進処理にもよく反応する。頂花房の着果数は11~12花で、女峰より40%、とちおとめより20%程度少ない(表-1)。

(3) 果実特性

果形は円錐形、果色は濃赤色で女峰及びとちおとめより濃い。果実の大きさは平均17g程度ととちおとめよりさらに大きい。糖度は女峰と同程度であるが、酸度が低く、粘質・多汁であるため食味が良い。果肉は女峰より硬いが、果皮はとちおとめより軟らかい(表-2)。

(4) 収量特性

花房の発生が良く、連続的に収穫ができる。収量性は高く安定しており、促成栽培での4月末までの収量は株当たり600g以上である(表-1)。

(5) 耐病性

耐病性は特になく、炭そ病、うどんこ病、アブラムシ類等は女峰と同程度に発生する。

(6) 適応作型

促成栽培が適する。

4．栽培上の留意点

(1) 果皮が軟らかく輸送性が低いため、用途は観光摘み取り用または直売用とし、市場出荷は行わない。

(2) 炭そ病等に対する耐病性は、女峰、とちおとめと同程度なので、同様の防除対策を行う。

5．成果の要約

女峰に比べて大果・多収で食味がよく、収穫の連続性に優れ、促成栽培に適応した観光用いちご品種「とちひめ」を育成した。

(担当者 いちご研究室 石原良行*・栃木博美**) *現野菜研究室、**現経営技術課

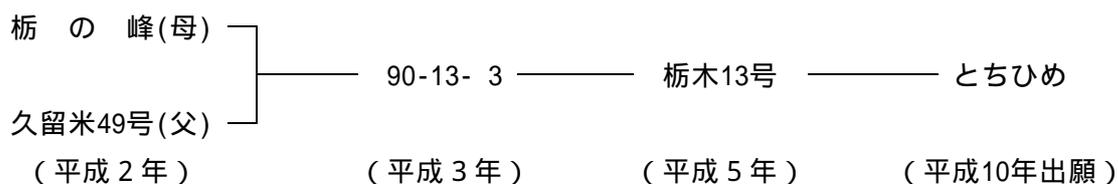


図 - 1 育成系統図

表 - 1 促成作型における育苗方法別の生育及び収量（平成5年度）

育苗方法	品 種	葉柄長 (12月13日) (cm)	収穫始 (月.日)	頂花房 着花数 (花/株)	時期別収量(g/株)				一果重 (g)
					~12月	1~2月	3~4月	合計	
夜冷	とちひめ	13.4	12.6	10.9	69	242	288	599	17.2
	とちおとめ	10.5	12.6	11.2	81	205	235	521	14.9
	女 峰	11.8	12.6	18.1	85	192	233	510	11.9
ポット	とちひめ	14.3	12.6	11.2	60	299	285	644	17.1
	とちおとめ	12.1	12.6	14.6	68	210	210	488	15.0
	女 峰	13.4	12.9	23.8	51	211	190	451	11.5
平地	とちひめ	11.3	1.3	12.6	20	370	296	696	20.3
	とちおとめ	9.6	1.5	15.1	2	283	247	533	15.1
	女 峰	10.6	1.5	21.4	1	298	212	511	12.4

注 栽培概要：夜冷育苗は夜冷短日処理8月23日～9月16日、定植9月17日。
ポット育苗は採苗7月5日、定植9月27日。平地育苗は採苗7月28日、
定植9月27日で、いずれも保温開始は10月23日とした。

表 - 2 果実特性（平成5年度）

品 種	糖度 (Brix)	酸度 (%)	硬度(g/2mm)		果形	果皮色	光沢	香気	空洞
			果皮	果肉					
とちひめ	8.7	0.71	63	141	円錐	濃赤	良	中	微
とちおとめ	9.7	0.99	77	185	円錐	鮮赤	良	中	微
女 峰	8.2	1.07	54	138	円錐	鮮赤	良	中	無

注 糖度、酸度、硬度は各育苗方法ごとに12月から4月まで毎月2回調査した平均値。